

肺非結核性抗酸菌感染症の治療のため手術を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター呼吸器外科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。**本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。**既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	肺非結核性抗酸菌感染症に対する肺切除術 59 例の検討
【研究実施期間】	倫理委員会承認後～2027 年 12 月 31 日
【研究実施期間・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 呼吸器外科 研究責任者 濱武 大輔
【対象となる方】	2007 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日の間に呼吸器外科で肺非結核性抗酸菌感染症の治療で入院・手術を受けられた 59 症例
【研究の意義、目的、方法】	肺非結核性抗酸菌感染症に対しては未だ特効薬がないため、空洞や気管支拡張症などの進行した病巣を有するものは内服や点滴の抗菌剤では治療し難い症例もあります。その場合は外科的治療の介入で手術を行うことがあり、病巣を有する肺を切除する事で病状をコントロールして治療していきます。当院では 2007 年 1 月～2024 年 12 月の 18 年間に肺非結核性抗酸菌感染症の患者 56 名に対して手術を行っているのですが、その手術結果や術後経過を検証して今後の治療に役立てたいと思っています。実際の手術症例数は両肺の手術を受けた患者 3 名を含むため 59 例となります。手術を必要とした症例の年齢や性別、主症状、既往歴を入院記録から読み取り実際に行われた手術方法や内容、手術時間、手術出血量、術後合併症、術後の経過などを調べたいと思っています。また予後や再燃した症例も確認して今後の外科治療の方針決定や

	手技に役立てていきたいと考えています。予後調査のため他院でお伺いした情報も利用する事があります。
【利用する試料・情報の種類】	肺非結核性抗酸菌感染症の手術例に対し診療記録、臨床検査データ（血液、病理検査結果）、診断用画像（胸部 CT、胸写）、手術時に作成された病理組織標本：切除肺（肺全摘、肺葉切除、区域切除、部分切除）の病変部位および正常部位。 予後調査のため他院で収集した試料・情報も含めて利用する。
【個人情報の保護】	研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないように配慮いたします。
【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者： 呼吸器外科 濱武 大輔 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331（代表）